

広がる 水稲乾田直播

だ。農林水産省によると、2022年は全国で1万7353㌦で乾田直播が実施されている。栽培面積が年々伸び、生産現場から注目されている乾田直播技術を集める。

担い手への農地集積が進む水田経営で水稲乾田直播が各地で広がっている。育苗や移植が不要で春作業が省力化できる上、移植栽培と比べて作期が1〜2週間程度遅れるのも大規模経営には利点

農閑期の初冬に播種

岩手大学が開発

農閑期の初冬の圃場に播種
農閑期の土中で越冬させて、春播種時に土中越冬させた水稲の初冬播種栽培。岩手大学が開発した技術で、春の直播と移植を組み合わせる3つの作型にすれば、さらなる作業分散と規模拡大につながる。主に東北地方で導入された。取り組んで3年目となる岩手県一関市の佐藤浩宏さん(66)の圃場で開催された生産者向け講習会には、県外からも参加者が訪れるなど関心が寄せられた。

2024年度の収穫を終えた14㌦の圃場で11月下旬、全面積圧入専用播種機を取り付けた35馬力トラクターが稼働する。25年産「ひとめぼれ」の播種作業だ。10㌦当たり播種量は約10㌦、播種深度は1〜2㌦の浅播えとし、土壌表面に種子が一部露出している。

佐藤さんは「銀河のしずへの移植3㌦とひとめぼれの移植5・4㌦、フルベリ10㌦も栽培する。圃場は青村荘圃場跡内であり、農機への配慮もあって不整形の小区圃場が多い。約1000枚の圃場を管理する佐藤さんは「春作業が期間中に集中する。作業分散につながる」と導入の理由を説明する。



播種状況を確認する佐藤さん。

春作業の負担軽減へ

講習会に参加した高城農楽原市の農業法人の役員は、移植だけでなく1㌦おこなう中、1㌦の規模拡大を目標とする。品種構成だけではいま上移植で回せない。対応できる技術が初冬直播しかない」と導入に前向きだ。

また、佐藤さんの場合、現状では約10㌦が播種。1㌦目はぬかるんだ水田で取り組み、ヒエの生育に合わせて収穫できなかった。2年目は水はけの良い水田を選び、雑草対策はついでに、しかし、肥料が少なすぎるとなり、10㌦当たり収穫は300㌦ほどだった。

種子コーティングで
初冬直播を向上
初冬直播を成功させるポイントの一つは、翌年春まで健全な種子をいかに多く生育させるかだ。種子は当年産を推進して、前年産なら15度以下で乾燥保存した種子を使う。乾もみを使



種子はキーンロー、アールコートイン、あまのつゆ。

なぜ乾田直播なのか

水稲直播栽培の面積は2017年までの約20年以上の間、おおむね湛水・乾田直播の伸びが続きました。18年から湛水直播は減少傾向に転じた一方、乾田直播は増加を続けています。22年に水稲直播栽培面積は、湛水直播の減少を上回る勢いで乾田直播が増加したことで、過去30年で最も多量の作付面積に占めることになりました。

農研機構東北農業研究センター
水田輪作研究領域
笹原和哉 水田輪作グループ長補佐

一方で多く、それぞれ4千㌦を超えています。現在はNARO方式乾田直播のフルアグリ栽培と不耕起湛水直播が増えています。東北地方においてNARO方式乾田直播が伸びている理由には、大きく分けて3つあります。

1つは省力化が促進する大規模経営が加わり、保有されるトラクターがO馬力程度であることも珍しくなくなっています。

もう1つは、農研機構東北農業研究センターが、安定栽培が成功するNARO方式

大幅な作期分散が可能に



それらの結果、水稲播種期間が長期化する無コティンゲン田直播の製造も進んでいます。一方、労働力不足による農業経営が厳しくなり、水稲の播の可能な地域で散が可能な機械や圃場面積にNARO方式乾田直播の導入が進んでいます。NARO方式乾田直播の導入が進むにつれて、水田多量な

農業共済新聞 令和7年1月1日(水)15面
※この記事は農業共済新聞の許諾を得て転載しています。
※無断転載・複写を禁じます